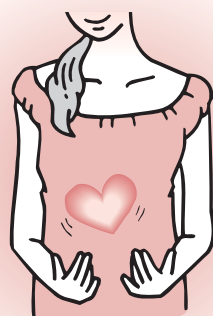


お祝い編

人が人を思う心。その心が日々の暮らしの中で育まれ、かたちとなって根付いているのが、マナーや習慣です。このコーナーでは、その「おもいやり」にフットをあてて、シリーズで紹介していきます。今回は日本のお祝いの文化に触れるとともに、相手に喜ばれる心遣いのポイントをご紹介します「お祝い編」講座です。



大切なのは”祝福する気持ち“

さりげない心遣いが、お祝いの場をいっそう盛り上げます

point

みんなで祝うときの
うれしい配慮



「同僚の結婚にみんなでお祝いしたら、全員にお返しがあってかえって恐縮した・・・」。こんな気遣いをさせる前に、「お返しは結構ですよ」とさりげなく伝えましょう。お祝いされた側も、メールやカードなどで感謝の気持ちを伝えればお互い、気持ちのよいお祝いとなるでしょう。

point

手紙の文章は
自分の言葉で素直に



普段、気軽に電子メールを書いているのに、あらためてお祝いの文句を考えると、かじこまってしまうがち。慣用の言葉にとらわれることはありません。形式ばった文章ではなく、あなたらしさが感じられる自然な言葉で、素直に祝福の気持ちを伝えましょう。

出産、入進学、結婚、誕生日…：私たちは折に触れ、家族や友人などさまざまな人を祝い、また祝福されながら暮らしています。お祝いとひと口にいっても、成人や結婚、入学や就職など社会との関わりの節目となるときや、新年のお年玉などのように風習にちなんだ行事などさまざまです。

私たちは、お互いに顔をあわせ、言葉を交わしながら心の距離を縮めていきます。そうして親しい間柄となった人の慶事に立ち会えることは、きっと自分のことのようにうれしいものでしょう。

そして、その人からお祝いの場に招待されるのも、身近に感じているあなたに、一緒に喜びを味わってほしい“という気持ちがあるからにはかたまりません。

その気持ちにあなた自身が真摯に応えることが、なによりも相手に喜ばれるのです。

お祝いにもさまざまな作法がありますが、その根底にあるのは”当人を祝福したい“という気持ちであり、それは地域や習慣が異なっても変わるものではありません。

もちろん作法は無視していいものではありませんが、意識し過ぎるとかえって

point



主賓を立て
お祝いの席を盛り上げよう

祝いの席では、お酒の飲み過ぎ、携帯電話や頻繁な出入りなど、マナーに反することは控えたいもの。喫煙も周りへの配慮を忘れず。また自慢話や議論につながりそうな話題は避け、主賓を楽しませ、誰にとっても楽しい思い出になるよう、和やかな雰囲気作りにも協力しましょう。

point



ともに生きる人だからこそ
お祝いは真心得

結婚記念日や誕生日など家族のお祝いでは、おしゃれをして食事に出かけるのも大いに結構ですが、感謝のメッセージをしたためたカードに一輪の花を添えて贈ってみては？大切な人だからこそ、「かたち」に頼りすぎず感謝の気持ちを具体的に伝えたいものです。

point



「忌み言葉」への注意も
ほどほどに

お祝いの席ではタブーとされる「忌み言葉」。でも、これを気にしすぎて何が言いたいのか分からなくなったりするのは本末転倒。祝辞は、相手の心に響くことが大切。必要以上に言葉にこだわらず、自分の感覚を信じて堂々とお祝いの気持ちを伝えましょう。

point



「カジュアル」「平服」を
そのままとらえない

招待状に書かれた「カジュアルな服装で」や「平服で」という一文は、主催者の心遣いです。そのまま「自由な服装」や「普段着」ととらえず、あなたらしくドレスアップしましょう。もちろん盛装する場合には、主賓より目立たないような配慮も大切です。

COLUMN

知ってるつもり？祝儀袋の選び方とふくさの使い方

お祝いに必要な祝儀袋。水引が紅白ならどんなお祝いにでも使えると勘違いしていませんか？水引には蝶結びと結びきりの二種類があります。蝶結びは何度あってもよい出産や入園・入学、新築・引越しのお祝いに使います。くれぐれも蝶結びの水引の祝儀袋を結婚のお祝いなどに使わないよう注意したいもの。

また、ふくさは祝儀袋などを包む小型の風呂敷です。結婚式などでは、祝儀袋をカバンやポケットにそのまま入れず、このふくさに包んでおきましょう。受付で挨拶をしたあとふくさをほどき、祝儀袋を出してふくさをたたみ、祝儀袋をふくさの上ののせて相手に差し出します。こうした丁寧な所作を通して祝うあなたの気持ちは、きっと相手にも伝わるでしょう。

て堅苦しく感じさせてしまったり、他人行儀になったりしかねません。当人をおもいやる心を大切に、そして素直な気持ちでお祝いしたいものです。